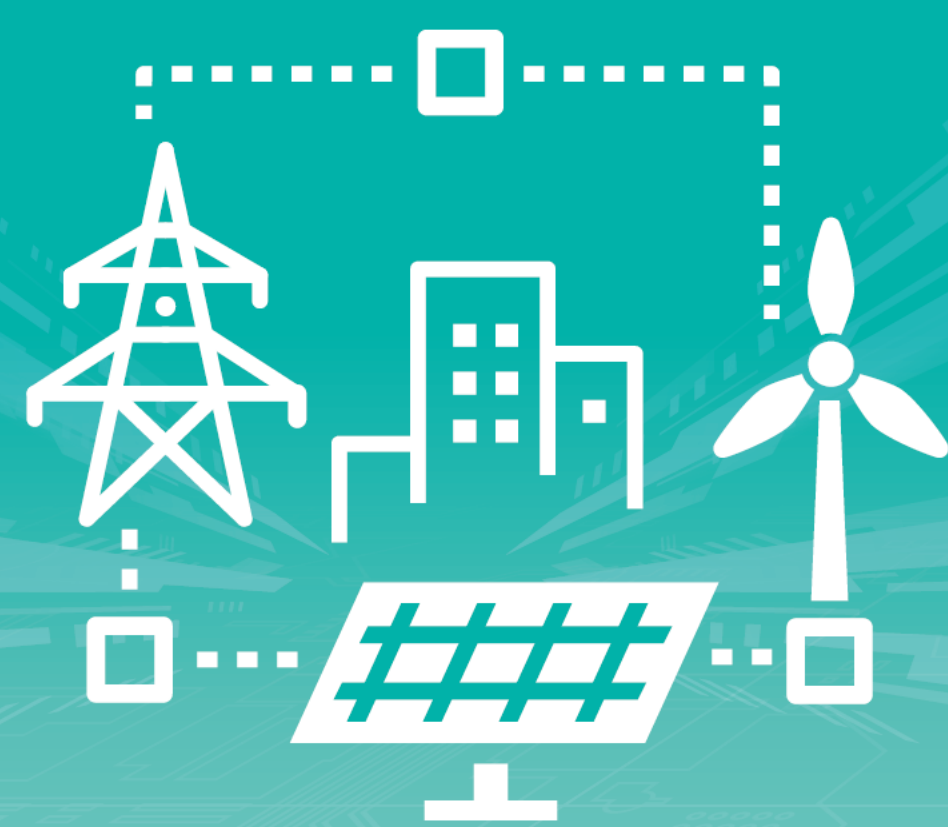




企業・国の垣根を越えた情報の連携 ～ ウラノスの実証とその未来 ～

データスペース

産業間データ連携

(一社)自動車・蓄電池トレーサビリティ推進センター

プロジェクト背景

- 製品に問題があった時や品質担保の観点から、どこで作られ、どう運ばれたのかが確認できる「トレーサビリティ」の重要性や、災害などが起きても安定して供給できる「サプライチェーンの強化」の重要性が高まってきている。
- この課題に対応するには、企業間で必要なデータを適切に連携・共有していかなければならないが、企業が有するデータは競争力のモトになる大切な情報でもあるため、むやみに外部へ公開できない。このため、データを活用しながらも、機密情報や競争上の強みを守ることができる仕組みが求められている。

プロジェクト概要

- 経済産業省のイニシアチブであるウラノス・エコシステムはこれらの**データ連携を推進**しており、そのコア技術がデータスペース(DS)である。DSは企業がデータの所有権や主導権を保持したまま**安心安全に他者とデータのやり取りを行うための技術基盤**であり、国内では様々な研究開発・実証事業・社会的受容のための施策や発信が行われている。

【事業① ユースケース実証】

日本版電池パスポートをユースケースとして、**電池情報の流通によるリユース・リサイクル促進**、資源の国内還流を目指した実証を、OEMメーカー、セルメーカー、サービス事業者参加のもと実施。

【事業② ドキュメント】

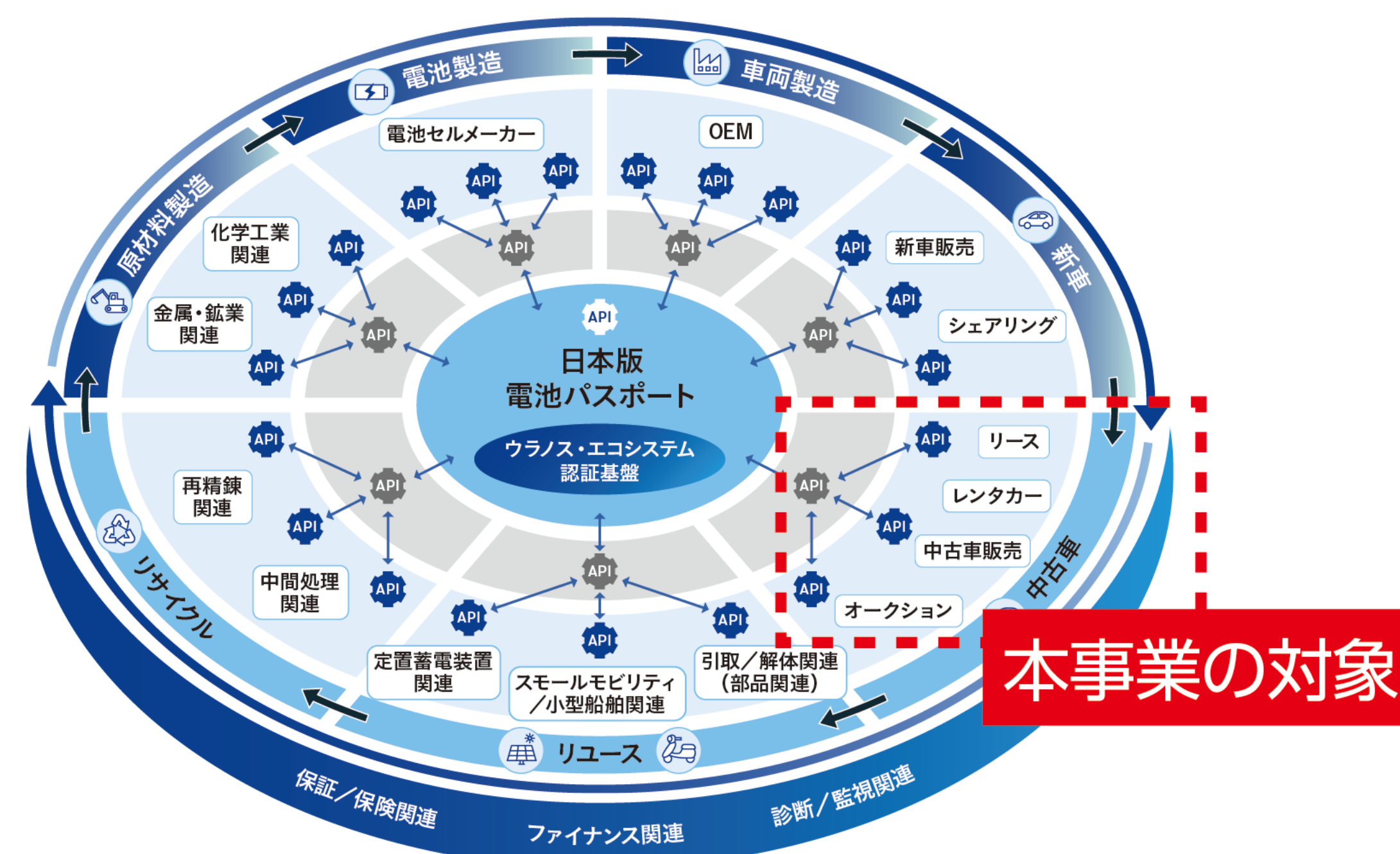
DSの導入・活用を支援する**様々なドキュメント素案をIPAに提供**。

【事業③ アウトリーチ活動】

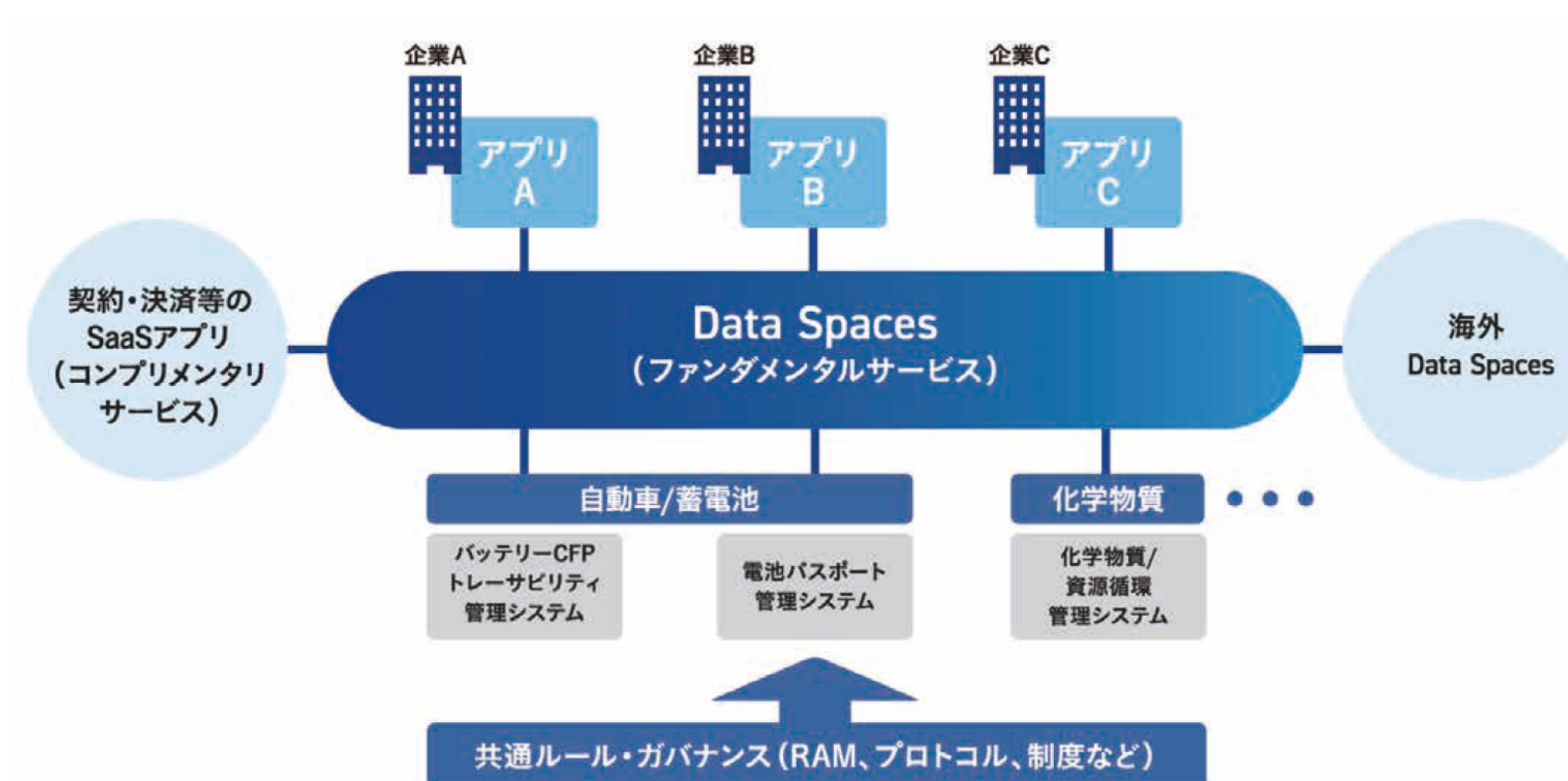
企業や団体がDSを知り自分事としてビジネス検討やソリューション開発へ取り組むきっかけ作りとして、講演や展示・アイディアソン・ハッカソンなど各種イベントを企画運営。



企業・組織の垣根を越えた
共創によるアイデア創出を議論



参照: 経済産業省第4回蓄電池産業戦略推進会議



DS基盤(本事業)× 業界固有の連携サービス(別事業)により
連動するデータ連携基盤が商用サービス化

今後の展望

様々な事業や官民連携の取組が計画・推進中であり国内外へのDSの広がりが期待できる。また、DSは自動車用蓄電池のカーボンフットプリントのような商用サービスも既に登場している。

事業化フェーズ

フェーズ	基礎研究	応用・PoC	実証	事業化準備	商用化
TRL	TRL1-2	TRL3-4	TRL5-6	TRL7-8	TRL9

プロジェクト実施期間	2025年度～2026年度	プロジェクト全体予算額	16.49億円(2025年度)
NEDOプロジェクト名	ウラノス・エコシステムの実現のためのデータ連携システム構築・実証事業		
お問い合わせ先	(一社)自動車・蓄電池トレーサビリティ推進センター 事業企画部 森 HP : https://abtc.or.jp/inquiry Email : t.mori@abtc.or.jp		

